

みくに



音楽療法の風景

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
HP: <http://www.teshimamikunien.com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

「災害への備え」

総主任 高橋 香織

今年日本列島は、度重なる自然災害に命を脅かされました。

記憶に新しいのが、この夏の連日に渡る猛暑です。香川県でも異常な暑さに見舞われ、夜間でも気温が下がらない熱帯夜が続きました。熱中症によって緊急搬送された人数も、8月の時点で過去最高の7万人を超えたそうです。

また、8月には活発化する前線の影響で、近畿地方や四国地方を中心に記録的な大雨が続きました。各地で土砂崩れや河川の氾濫が相次ぎ、近県の岡山県倉敷市では河川の堤防の決壊により大きな被害に見舞われ、大勢の方が亡くなられました。そして今もなお避難生活を送られている方がいるそうです。テレビのニュースの映像を見ながら、日常のすべてを一瞬で奪ってしまう自然の猛威に体が震えました。「もし、この災害が豊島で起こったら・・・」と考えると恐怖さえ覚えます。このような予期せぬタイミングで私たちの身に降りかかる恐れのある自然災害を想定し、みくに園でも対策を講じています。

万が一の際に被害を軽減するために、火災時に火の延焼を抑制するスプリンクラーを設置し、また台風や豪雨に備え、水路の清掃や点検を定期的に行っていきます。台風時には園内に職員が数名待機し、いざという時は利用者の避難誘導にあたります。そのため火災時だけでなく、津波や豪雨に備えての避難訓練も行っています。そして、もし災害で厨房が被災しても、約90名分の非常食や水を1週間分備蓄しています。オムツや口腔ケア用品、使い捨て手袋や保温マット、その他の日用品等、利用者に必要な物は高台にある災害用の備蓄倉庫に保管しています。また、医務室には、すぐに持ち出しができるように避難用の薬もセットしています。しかし、備蓄品だけでは十分ではありません。被災時、利用者は一般の避難所での生活は難しいのではないかと考えられます。日常とは異なる生活への理解も難しく、混乱やパニックが起きることも想定されます。体調面や衛生面への配慮、どこで避難生活を送るのか、利用者に現状をどう理解してもらうのかなども視野に入れなければなりません。各地で起きた災害を教訓に、具体策を検討しながら今後も準備を進めていかなければならぬと考えています。



個が奏でるハーモニー

日本音楽療法学会 認定音楽療法士 山田 久美

「乾杯！お疲れさま！」第18回 日本音楽療法学会学術大会が幕を下ろした。

9月14日～16日の3日間、全国各地から1,500名の音楽療法関係者が高松に集い、美しい瀬戸内の島々を一望できるサンポートホール高松で音楽療法について議論や研究を深め、研鑽を積んだ。四国で全国大会が開催されたのは2009年の松山大会以来9年振りであった。

日本音楽療法学会は2001年4月の設立以来、障がいがある人達に音楽を通して寄り添い、心と身体のケアに取り組んでいる。昨年105歳で亡くなられた医師であり日本音楽療法学会名誉理事長の日野原重明氏は「音楽という環境が全人類にとって幸せと平安、安全をもたらす。」と確信しておられた。今回の大会では、日本の音楽療法の土台を築き、その普及に全力を尽くされた日野原先生を偲び、音楽評論家・作詞家であり本学会理事の湯川れい子氏によるメモリアルトークが行われた。また、脳科学者である茂木健一郎氏は『音楽と脳』というタイトルで講演し、「好きな音楽を増やして喜びを感じる音楽の幅を広げることは、脳が活性化するきっかけになる。脳にもたらす音楽の恵みは広く深い。」と述べられた。音楽の力を実感し、音楽療法の未来に希望を抱き、喜びと感動を与えられた3日間であった。

私は今大会に運営責任者として関わらせていただいた。1,500名の人達の心に残る高松大会を開催できるのか…。スタッフ会議を重ね、何度も運営マニュアルを作り直し、大会直前は時間との闘いであった。大会を終えて運営面での反省点は多々ある。しかし、家族や仕事を犠牲にして時間を捧げ、全力で大会に臨んでくれたスタッフに助けられて、大会を成功裏に終了することができた。全てのものを出し切りやっと乾杯できた時、皆の顔は笑顔と涙で輝いていた。『個が奏でるハーモニー』が大会テーマであったが、正に個が奏でる小さなハーモニーに皆の知恵と力が加わり、素晴らしい心のハーモニーを奏でることができた大会であった。

10年近く前、北海道から音楽療法士資格取得を目指して大阪に通い共に切磋琢磨した友人が、高松での全国大会の後、みくに園まで足を延ばしてくれた。「美しい豊島の浜で命の洗濯をし、豊かな時間を過ごすことができた。自分のできることは何か、ゆっくり考え求めてゆきたい。」と便りが届いた。

みくに園に音楽療法を導入して13年目である。豊島の大自然の中で今日も利用者さん一人ひとりが奏でるハーモニーに耳を傾け、感性を研ぎ澄まし、音楽の力によって利用者さん達が輝く瞬間を一緒に紡いでゆきたい。

Challenge & チャレンジ

＜諦めなし！Part115＞ Eさんのおつかい

人と関わることが好きな1番館のEさんは、職員によく話しかけてくる。Eさんは隣接する菓子工房へお邪魔することが日課になっている。工房ではお菓子の甘い香りに包まれて、お菓子や洋服のチラシを見て楽しんでいる。しかし、その時間は食事前や活動中のこともあります、Eさんが不在で大慌てすることもあった。

なぜ工房へ行くのか職員間で話し合った。甘いものが好きなこと、そして工房の職員との関わりを求めていのではないかと考えた。そこで、毎日職員と一緒に工房へおつかいに行くことにした。書類や荷物をカバンに入れ、工房へ届ける。届け終わったら飴を食べる。

職員がおつかいに誘うと、笑顔で駆け寄って来る。その笑顔に私の心も和む。Eさんの表情から、このおつかいを楽しみにしていることが分かる。この取り組みをはじめてから活動にも頑張って参加できるようになった。片手にカバンを持ち、颯爽と出かける姿を見ながら、みんなでEさんについて考え、話し合うことの大切さを学んだ。

（川下 記）



＜諦めなし！Part116＞ いとこ会に参加しました！



3番館のHさんは脳性麻痺があり、車椅子で生活している。歯が無く、誤嚥の恐れがあるため食事はミンチ食である。言葉でのコミュニケーションは難しいが、嬉しい時や嫌な時は体を動かして表現する。

Hさんの実家は豊島にあり、5年前までは在宅で生活していた。Hさんは3人兄弟の長女で、妹さんや弟さんに「姉ちゃん」と呼ばれ、兄弟の前では姉の顔になる。現在は月1回程度帰省している。

ある日、Hさんに一通の手紙が届いた。それは、総勢20名程いるいとこ達が集まる食事会の開催の知らせだった。島外の温泉施設内の料理屋が会場ということもあり、車椅子のHさんが参加することは難しいのではないかと思っていた。しかし、妹さんが当然のように「一緒に参加しますよ！」と言わされたことに驚いた。猛暑が続くお盆に、Hさんは妹さんや弟さんと一緒にいとこ会に参加した。数十年ぶりに会ういとこ達との再会に涙を流していたと聞いた。感情豊かで涙もろく、人情味あふれるHさんの新たな一面と、Hさんを姉と慕う兄弟愛に心打たれる出来事だった。

（古川 記）

ギャラリーみ(に)

～三宅恵子さん～

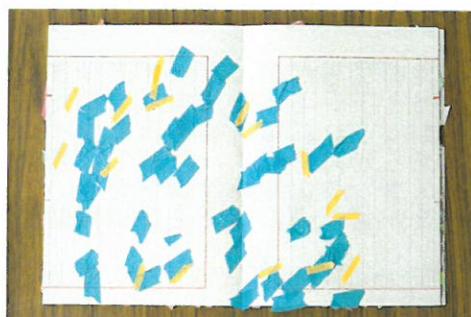
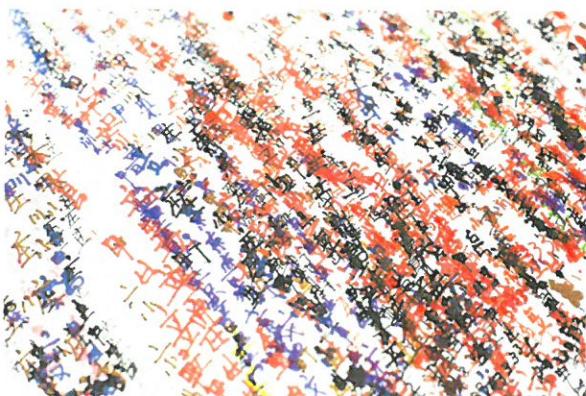
毎週月曜日と火曜日に行われているアート活動で、利用者さんが制作した作品を紹介します。



三宅恵子さんは視力がほとんどありませんが、毎週アート活動に取り組んでいます。

長い期間『住所書き』をしていました。生まれ育った大好きな実家の住所を繰り返し繰り返し紙に書くのです。読めないほど重なり合った文字には、恵子さんの「帰りたいな」という強い思いが詰まっているかのようです。また、手探りで懐かしい場所の住所を書くことは、かつて見ていた大切な風景を忘れずに繋ぎ止めようとする行為なのかもしれません。

最近は新しい試みである『テープ貼り』にも挑戦中です。手の感覚とひらめきのままに、ノートに様々な色のテープを貼っていきます。「これは何の色」という恵子さんからの質問に、スタッフは「空みたいな水色ですよ」「桜みたいな薄いピンク色です」などと答えます。そのとき恵子さんの心には、どんな色が浮かんでいるのでしょうか。



遠足へ行つきました！



今年はリハビリセンターの福祉バスを借りて、全棟レオマの森のランチバイキングに挑戦しました。たくさんの料理を前にして、目移りしてなかなか選べない人、同じ物ばかり食べる人、スイーツを全品制覇した人、それぞれが食欲の秋を満喫しました。今回の福祉バスは車椅子での乗降がスムーズにでき、車椅子が6台乗れます。車椅子の方が多い3番館でも遠出をすることができました。

豊島の秋祭り



今年も豊島で秋祭りが行われ、みくに園にも3台の太鼓がやってきました。お祭り好きのKさんはこの時期になると毎日太鼓が来るのを楽しみにしています。太鼓に合わせ、笑顔で音頭をとっていました。



＜行事予定＞

11月20日	豊島中学校交流運動会
11月21日	インフルエンザ予防接種
12月21日	クリスマス会
12月28日～1月4日	冬休み（予定）

編集後記

夏の猛暑がやっと過ぎ去りました。そして季節は移り秋となり、朝夕の気温がぐっと下がるようになりましたが、まだ昼間の日差しは暑く、体調管理の難しい時期です。この時期は風邪やインフルエンザに気を付けると共に、感染症にも目を光らせ始めます。対策の研修を新人職員には重点的に行い、すでに研修を終えたスタッフにも再度研修を行い、対策備品の確認なども実施しました。今年も残り2ヶ月、みんなで健康に笑顔で新年を迎えることを願っています。

E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920